発行：菊陽町教育委員会

熊本県菊池郡菊陽町久保田2598番地
tel. 096 232 4917

菊陽町文化財
ツーリズム
ガイドブック

Kikuyo-machi cultural asset
Tourism
Guide book

過去と未来、人と人を結ぶ、文化な旅へ出かけませんか！

菊陽町の歴史は、町を流れる白川の水の恵みと大きな関わりがあります。
町や近隣の地域には白川や水にまつわる有形・無形の文化財がたくさんあります。

また、地域のまんなかを貫く昔の道・豊後街道も
菊陽町の成り立ちを語る上で欠かせないもの。
参勤交代の道として古くからたくさんの人々、モノが行き交い、
独自の歴史・文化を育んできました。

菊陽町文化財ツーリズムは、水を治め、活かしてきた昔の人々の知恵と努力の足跡、
そして街道を行き交ったさまざまな人が現代に残してきた「遺産」を巡る小旅行。
この地域ならではの、人々の暮らしの息吹を体感できる文化な旅です。

コースは「水の道」「人の道」の2つ。

このガイドブックでは、2つのコースのモデル順路とそれぞれのスポットへのマップをご紹介していますが行き方、楽しみ方は自由。自動車、徒歩、自転車などご自分にあったペースでそれぞれの文化スポットをゆっくりと楽しんでください。

水の道

加藤清正公や、歴代の細川公が造らせたと
伝えられている井手(農業用水)や、
眼鏡橋など、江戸時代から近代にかけての
治水、利水にまつわる文化財をめぐります。

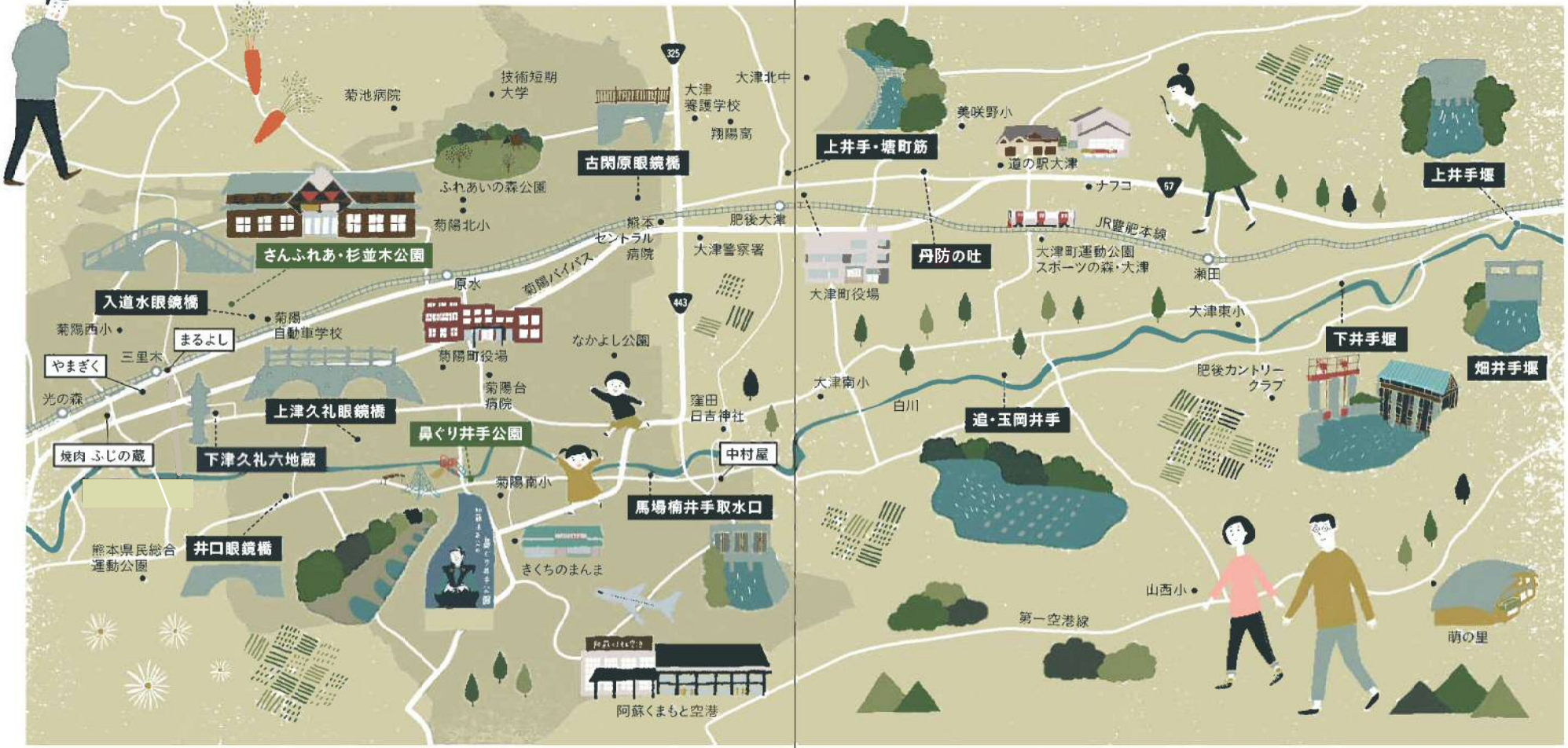
「水の道」コース

ショートコース

鼻ぐり井手公園 → 6.6 km → 馬場楠井手取水口 → 13.7 km → 井口眼鏡橋 → 4.2 km → 上津久礼眼鏡橋 → 13.6 km → 古閑原眼鏡橋 → 15.7 km → 入道水眼鏡橋 → 0.3 km → さんふれあ

ロングコース

鼻ぐり井手公園 → 8.1 km → 井口眼鏡橋 → 5.7 km → 上津久礼眼鏡橋 → 10.2 km → 馬場楠井手取水口 → 13.6 km → 迫・玉岡井手 → 1.8 km → 畑井手堰 → 3 km → 上井手堰 → 2.4 km → 下井手堰 → 16.6 km → 丹防の吐 → 2.8 km → 上井手・塘町筋 → 8.1 km → 古閑原眼鏡橋 → 15.2 km → 入道水眼鏡橋 → 0.3 km → さんふれあ



水の道

阿蘇カルデラの水を集めて有明海にそそぐ一級河川・白川。熊本県の母なる川である白川の恵みを体感できるのが、その中流域にある菊陽町です。

白川はよく見ると、流域がおたまじゃくしのようなユニークな格好をしています。九州中部に東西方向に密に分布する活断層のため、このような流域になったと考えられていますが、そのため白川が町の中央を流れているとはいえ、その水を利用するには上流から井手を通じて水を引く必要がありました。

加藤清正の時代に作られたといわれる「鼻ぐり」のある馬場楠井手は白川の南側を潤し、北側には大津町瀬田に取水口のある瀬田上井手・下井手、同じく津久礼井手、玉岡井手があります。井手の水は生活用水や農業になくてはならないもので、町内を縦横に走る井手は菊陽町を支える水の道といっても過言ではありません。

加藤・細川藩時代に作られた、このような井手は今も現役で活躍しています。そして生活圏を流れる井手に作られた堰や眼鏡橋は文化財として大切に守られています。

トイレあり
駐車場あり

水の道コースみどころポイント

六堰七井手

白川中流域には、川の水を引込む六つの堰と、7本の井手（用水路）がつくられ、これらを総称して六堰七井手といいます。井手のほとんどは、現在もかんがい用水として使われており、、「鼻ぐり井手」では江戸時代の高度な技術がそのままの形で残されており、「瀬田上井手」や「馬場楠井手の取入口」では古い時代の石造りの構造物が見られます。

眼鏡橋群と井手のある情景

たくさんの井手が開削されたことにより、井手を渡るための橋もたくさん必要になりました。菊陽町、大津町には江戸時代後期から明治初期に井手にかけられた石橋（眼鏡橋）がいくつも残されています。また、「上井手」沿いに作られた町並みでは、水とともに暮らしを築いてきた、歴史の息吹を感じることが出来ます。

鼻ぐり井手

江戸時代の用水路「馬場楠井手」の中にあるスゴイ“仕掛け”

「鼻ぐり井手」とは、馬場楠井手の取水口から約2Km下流に下ったところに作られた構造物の呼び名。加藤清正公が築造させたと言われる歴史遺産です。井手（用水路）の中に作られた「鼻ぐり構造」と呼ばれるトンネル状に穴があいた壁が複雑な水流を生み出し、井手の底に土砂や火山灰が溜まるのを防いでいます。全国的にも類をみない、菊陽町が誇る宝物です。

鼻ぐり井手公園
鼻ぐり井手に隣接、映像や展示パネルで井手の仕組みや、400年にわたる歴史、町の人々と井手との関わりなどを学べる「交流センター」、広い芝生広場などがあります。

井口眼鏡橋

県内でも珍しい構造の石橋

馬場楠井手に架かる単一アーチ橋（石造）であり、昭和初期まで重要な生活道でした。この橋の特徴は、輪石の接する部分に、すべて石楔（くさび）が使用されている点で、琉球式架橋法といわれ、県内でも極めて少ない貴重な石橋の一つです。

上津久礼眼鏡橋

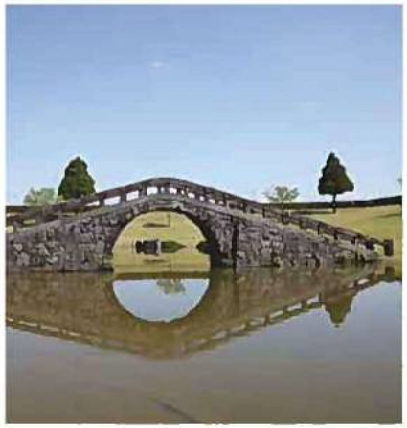
町内唯一の二連式アーチ橋

津久礼井手(大アーチ)と瀬田下井手(小アーチ)の二つの流れに架かる二連式アーチ橋で、井手底が「津久礼井手側」は低く、「瀬田上井手側」は高くなっており、田地の実情に合わせて構築されていることが特徴です。現在では公園としてそのままの状態で保存されています。

馬場楠井手取水口

清正公が独自の工法で造らせた取水口

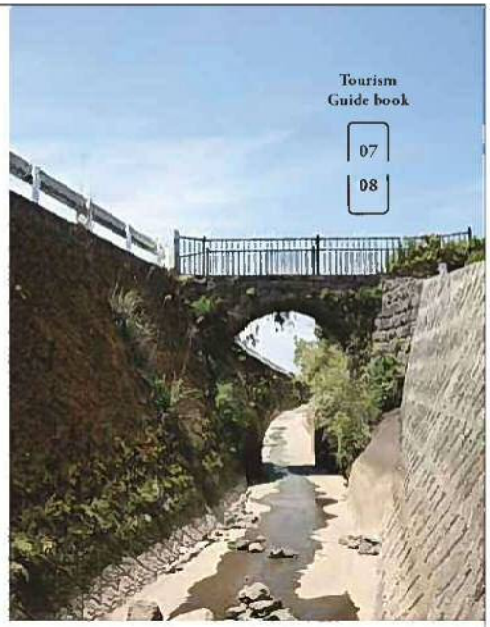
慶長13年(1608年)、白川下流域の左岸を水田化するため、加藤清正公によって築造されたと伝えられています。特徴として岩を猪口(さかずき)の口のようにくり貫き、一定量の水量しか入れず、土砂をかき混ぜ排除する手法がとられています。



入道水眼鏡橋

まん丸アーチのかわいい石橋

この眼鏡橋は、以前は菊陽町原水を東西に流れる上井手の入道水菅原神社参道に架けられていましたが、瀬田上井手の幅が広げられることになり、菊陽杉並木公園ハス池に移設されました。復元の際に壁石・欄干が新設されていますが、特徴である真円に近いアーチ部は当時のままの姿を残しています。



古閑原眼鏡橋

いまなお現役で使われいる生活橋

古閑原の南側を流れる上井手に掛かる単一アーチ橋です。重要な地区の生活道でしたが、県道が開通したため、現在はあまり利用されなくなっています。この橋は、井手の両岸が固い岩盤であることから、アーチの基礎が、井手底から約2.2メートル上方からはじまっている変形アーチ橋です。

上井手・塘町筋

大津町歴史文化伝承館内

土手に作られた風情ある宿場町の名残

寛永の頃に熊本藩主細川忠利公により上井手の開削工事が再開された際、工事の廃土により築かれた川塘の上に建てられた町並みが塘町筋です。豊後街道に面しており、旅籠・商家などが軒を連ねました。町筋には、上井手にかかる4基の石造眼鏡橋が残されています。

丹防の吐

巨石でつくられた水門があった場所

この近辺は、水に恵まれた地域で、大津でも古い歴史のある場所でした。湿地帯に、人々が田圃(丹防)を作り集落を形成したことから丹防の名がつきました。上井手を開削するに当って、巨石を用いた水門を造り、江戸後期には、その余分な流れを逃がす吐口を設置し「丹防の吐」の地名が付きました。

下井手堰

白川の中には巨石・兜岩が鎮座

下井手は奈良初期(和銅年間)に開削されたと伝えられますが、埋没して遺跡化していました。それを加藤清正公が天正17年(1579)改修に着手し、慶長3年(1598)竣工、二代藩主忠広公が元和中に補修し完成しました。堰の近くの白川には阿蘇大明神が蹴飛ばしたとされる兜岩があります。

上井手堰

大津町の中心部の流れる井手の取水口

大津町瀬田「鍋倉の瀬」にある上井手の取水口です。上井手は大津町の中心部を貫き、菊陽町古閑原から鉄砲小路の北側で「堀川」と名を変え、合志市を経て、熊本市飛田で坪井川に合流しています。加藤清正公が構想し、二代藩主・忠広公が元和4年(1618)に着手し、後を引き継いだ細川綱利公の代に坪井川まで完成しました。上井手堰の取水口は清正公秘伝の「銚子口」と伝えられています。

その他の水の道スポット

畑井手堰

六堰七井手の中で最も上流にある堰

六堰七井手と呼ばれる中でも最も上流にあります。1675年に熊本藩家老の長岡監物が命じて造らせたと伝えられており、この堰から約6キロにわたって井手が伸び、江戸時代55ヘクタールの田畑を潤したと言われています。

迫・玉岡堰

2つの井手に水を取り込む堰

白川左岸の迫井手と、右岸の玉岡井手の2つの井手に水を送るために設けられた迫・玉岡井手。最初に作られた年代はわかっていませんが、江戸時代以来、水害の被害などで4回、堰の場所を変えて江戸時代末期に現在の位置に移されました。

ちょっとひと休み、菊陽町文化財ツーリズム沿線の楽しいスポット！

菊陽杉並木公園“さんさん”

けやき並木をいくと緑あふれる広々としたふれあい広場へ。公園内には噴水がある中央広場や季節の花々が咲き誇る花園、野外ステージやスポーツ広場など、家族連れやカップルの憩いの場としてご利用できます。

中央広場

小池

さんふれあ

町の特産品や加工品が並ぶほか、町でとれた農産物が味わえるレストラン、温泉などがあります

露天風呂

大浴場

農産物直売店 さん彩

人の道

杉並木で有名な豊後街道では、
いろんな人やモノが
行き交い多くの物語が生まれています。
宿場町の繁栄の名残り、
街道を守るための鉄砲衆の暮らし、
道を通った旅人の足跡など、歴史をつないだ
道にまつわる文化財をめぐります。

「人の道」コース

ショートコース

さんふれあ → 13 km → 頼山陽詩碑 → 4 km → 櫨並木 → 5.6 km → 鉄砲小路 → 5.6 km → 蘇古鶴神社 → 8.4 km → 杉並木(豊後街道) → 3.2 km → さんふれあ

ロングコース

武蔵塚公園 → 11 km → 櫨並木 → 4 km → 頼山陽詩碑 → 5 km → さんふれあ → 3.2 km → 鉄砲小路 → 5.6 km → 蘇古鶴神社 → 1.8 km → 杉並木・四里木跡 → 4.2 km → 室質戸口跡 → 5.1 km → 大津町歴史文化伝承館 → 1.3 km → 人馬所跡 → 1.2 km → 大津手永会所跡 → 0.4 km → 御茶屋跡 → 1.2 km → 御蔵跡 → 1.5 km → 清正公道・五里木跡 → 6.5 km → 道の駅 大津

人の道

熊本と阿蘇、さらに大分を結ぶ交通の要衝に位置する菊陽町には、古くから人とモノが行き交った重要な道が数多く作られました。大津の杉並木として知られる豊後街道をはじめ歴史的に重要な街道、暮らしに密着した生活道。今もその多くの道が使われていますが、道沿いには石碑などがあって、その歴史を物語っています。

参勤交代の道として知られる豊後街道は肥後四街道の一つで、幅が広いところでは40メートルもある、現代の幹線道路に匹敵する道です。街道沿いには、細川忠利公から兵法指南役として招かれた剣豪・宮本武蔵の墓所、武蔵塚公園などもあります。

また、肥後の国府「飽田府」と阿蘇・南郷さらに大分・竹田を結ぶ南郷往還は古くから経済文化の交流の重要な道でした。国道57号の開通などで使われなくなりましたが、苔むした石畳の道に立つと往時の華やかさをしのぶことができます。

ほかにも大津と合志の竹迫を結ぶ竹迫往還など、現代も大切な生活道として生きている道が町内に数多くあり、文化的遺産ともなっています。

トイレあり
駐車場あり

人の道コースみどころポイント

街道と人々の暮らし

豊後街道の北側には地筒の者（鉄砲衆）が暮らした集落「鉄砲小路」が造られました。この集落では、豊後方面からの敵に備えるとともに、未開墾地の開拓にあたりました。現在では約4キロにわたって旧武家屋敷に見事な生け垣が整備されています。集落の中にある蘇古鶴神社は、鉄砲小路（てっぽうこうじ）の守護神として阿蘇神社より勧請されました。

宿場町・参勤交代の面影

大津町は参勤交代の宿場町として、また熊本藩の行政区分・旧大津手永（現在の大津町、菊陽町、旧旭志村）の役所が置かれるなど、地域の中心として賑わっていました。藩主が宿泊・休憩した「御茶屋跡」や、藩主の通行の安全を守るために臨時で置かれる関所の跡「室鳶戸口跡」、年貢米の運搬などの中継基地になっていた「人馬所跡」など、江戸時代にまつわる史跡が多数あります。

鉄砲小路

江戸時代にタイムスリップしたような美しい集落

鉄砲小路は江戸初期、肥後入国時の細川藩主忠利によって寛永12年（1635）から翌年にかけて作られました。この地は熊本城から見た鬼門にあたり、外部の侵略から熊本市周辺を守るために整備されました。古い屋敷や蔵が立ち並び、地元住民の手によって綺麗に整備された生垣が続いており、その景観の素晴らしさと、歴史的価値を感じることができます。平成元年には「第一回くまもと景観賞」を受賞、平成24年には「くまもと歴町50選」に選定されています。

蘇古鶴神社

鉄砲小路の守護神として勧請されました。名前の由来は、細川忠利公が鷹狩りでこの地に来られたとき、鶴が二羽舞い降りてきたので、将来にわたり社号を阿蘇の蘇の字を鶴の上にかぶせて「蘇古鶴宮」と申し伝えたとのことです。

頼山陽詩碑

徒歩 車 菊陽杉並木公園さんさんを利用

杉並木の景観に感動して詠んだ詩

頼山陽(らいさんよう)は江戸時代後期に活躍した文人です。文政元年(1818)に彼が大分県竹田に向かう道中で詠んだ自筆の句が記されています。碑は昭和9年に大津街道杉並木保存会によって建立されました。

杉並木・四里木

加藤清正公が植えさせた豊後街道のシンボル

加藤清正公が屋久島から取り寄せた杉を豊後街道(現在の県道337号)に植えたとされる杉並木は、江戸時代当時「一枝折らば一指斬るべし。一株伐らば一首馘るべし」と言われたほど、大切に守られてきました。比較的樹齢が古い杉が残っている原水地区には、熊本城札の辻から四里(約16キロ)を示す四里木がありましたが。現在では里数木はなく石碑が建てられています。

その他の人の道スポット

武蔵塚公園

徒歩 車

死後も藩主を見守る宮本武蔵の墓所

晩年を熊本で過ごした剣豪・宮本武蔵の墓所です。その死後も藩主を見守りたいという遺言から、参勤交代の行列が通る豊後街道沿いに墓が建てられました。現在では、二刀を携えて立つ武蔵のブロンズ像が置かれ、日本庭園や茶室などもある緑多い静かな公園となっています。

櫨並木

赤穂浪士・大石内蔵助の進言で植えた櫨並木

豊後街道の竜田三里木あたりには、杉並木のほかに、櫨の並木も残っています。これは熊本藩六代藩主細川宜紀公が、櫨の栽植を奨励し、藩内のあらゆる空き地(官地)をはじめ、河川の堤防、道路敷の空き地に櫨の木を植えさせたその名残です。

室簀戸口跡

参勤交代の時だけ設けられた関所の跡

参勤交代など藩主が豊後街道を通行する時の臨時関所の跡です。簀(すだれ)は男竹、直径1寸5分(約4.5メートル)の真竹で、高さ2間(約2.8メートル)に編んだ2枚を左右に立て簀戸守が警戒に当たりました。

人馬所跡

周辺地域の米や年貢を集めた江戸時代の物流拠点

細川藩が設置した人夫駅馬継所のことを略して人馬所といいます。ここには約6百坪の広場があって、豊後街道や上井手を利用した年貢の運搬・早馬などの藩の公役・公用に備えて、大津・竹迫両手永に割り当てられた人夫が1日に約20人、駅馬が約30頭常に待機し、彼らを役人が監督していました。

大津手永会所跡

江戸時代にこの地域を治めた役所の跡

手永とは「領主が手いっぱいに治め得る区域」という意味で細川藩独特の地方行政区画で、大津手永は現在の大津・菊陽・旭志の3町村をほぼ合わせたぐらいの区域のことです。ここには、行政・子弟教育・裁判・医療などの施設があり、郡代、惣庄屋のほか、年貢取立てや犯罪取締りなどの諸役人が勤務していました。

御茶屋跡

参勤交代で殿様の宿泊した場所

江戸時代の豊後街道往来の折、藩主が宿泊・休憩する施設でした。普通には「本陣」と呼ばれるもので、「御茶屋」とは細川藩独自の名称です。手永会所に隣接していました。構内に御茶屋番宅があり、当番の役人が常時管理に当たっていました。御茶屋の遺構は残っていませんが、北側に馬をつないだ石の群れが残っていました。

御蔵跡

細川藩の年貢米を収めた倉庫

江戸時代、白川中流域や阿蘇からの上納年貢米を格納する細川藩の年貢の倉庫です。この様な「御蔵」は大津の他、熊本市の川尻・玉名市の高瀬などに建てられていました。大小二棟の御蔵のに蔵入れする年貢米は毎年7万石、16万俵にのぼったといわれています。旧10月末より11月中にかけて農民が年貢を納める「御蔵払」の期間は、上大津より仲町にかけて人馬雑踏の賑わいを呈しました。

その他の人の道スポット

清正公道・五里木跡

江戸時代の桜の名所

豊後街道は、大津町から阿蘇郡阿蘇町二重峠までの間、加藤清正公にちなんで清正公道と呼ばれています。途中に熊本城から五里を示す「五里木」がありました。「五里木」一帯は、街道筋に植えられた桜の木を育成したところで、花見の場所にもなっていました。